

整理作業でみつけた「なるほど」な情報を、一早くご紹介！

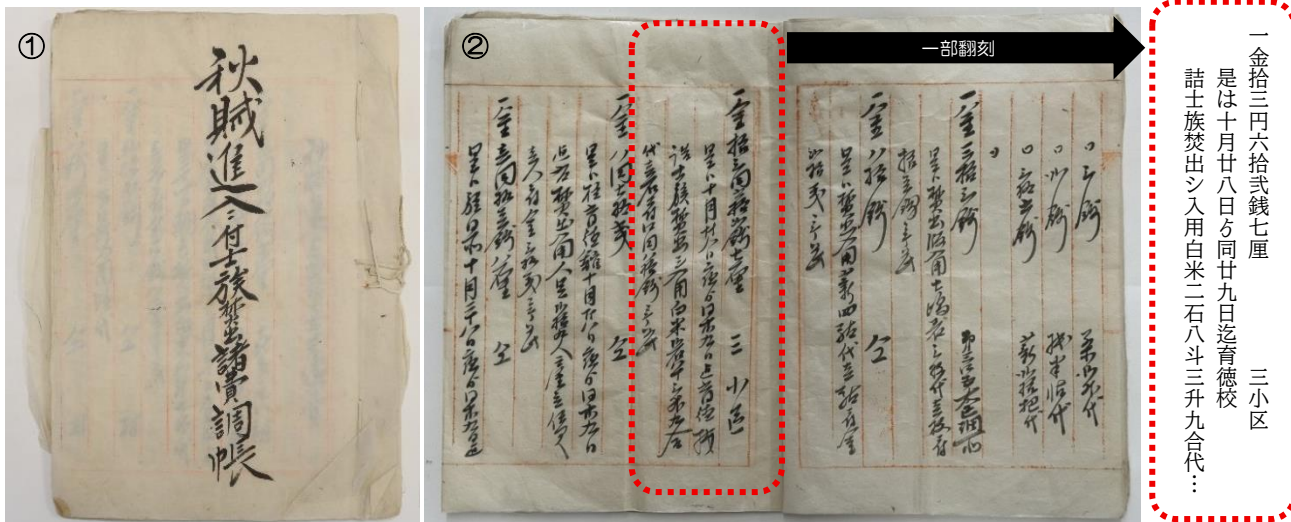
この資料「ここがみどころ、ここがツボ!!」-整理作業の最前線から「蔵出し」最新情報/ File.016-

博物館には「収蔵資料整理」とよばれる、資料を世に出すにあたり基礎となり不可欠な作業（点検・ナンバリング・収納・補修など）があります。この作業では、規模の大小はあれ、日々「新（あるいは再）発見」と「感動」と「謎や問いかけ」があり興味が尽きない一方、コツコツと根気強くやるしかない地味で辛く大変な作業です。

ここでは、そんな整理作業の過程で得られた資料にまつわる「なるほど」な情報をご紹介して参りますので、皆さんも情報を通じてこの大事な作業の「協働者」になって頂けると幸いです。

というわけで、今回皆さんにご紹介したい新（再）発見資料はコレです！

- 資料名 : 「秋賊侵入二付士族焚出諸費調帳(しゅうぞくしんにゆうにつきしぞくたきだししょひしらべちょう)」
- 資料のひとことPR: 豊津側からみた秋月の乱の顛末がよくわかる
- 資料写真 : ①秋賊侵入二付士族焚出諸費調帳 表紙 ②同書 本文見開き



■資料データ File

- ・形状/材質/量量 : 縦帳(右側紙紐 25 枚綴じ) /和紙/タテ 24.5×横 17 cm
- ・制作年代 : 明治9年(1876)
- ・注目ポイント : 戦時下の炊出しでどれだけのお金とモノが動いたか、現状をつぶさに知ることができる
- ・備考 : 原資料は福岡県育徳館高等学校錦陵同窓会所蔵(当館寄託)

■資料メモ

秋月の乱は、明治9年(1876)10月に明治政府の政策に不満を持った旧秋月藩士族約250人が蜂起した事件です。明治初期の「不平士族の反乱」の一つとして捉えられているこの乱に関する資料が、当館の「小笠原文庫」の中に収められています。秋月士族は熊本県の神風連の乱に呼応して挙兵。のちに豊津士族と合流予定で豊津に向かいますが、豊津側は乱に応じず、結果的に鎮圧のための政府軍と豊津の地で戦闘となり、秋月側は多数の死傷者を出し敗走、鎮圧されたのでした。

今回ご紹介する「秋賊進入二付士族焚出諸費調帳」は、この戦闘にあたり戦時の炊出しにどのくらいかかったかという「戦の経費」の側面を知ることができる貴重な資料です。乱当日からの育徳学校詰や戦いの場所の士族への炊出しでかかったものが村々の名前と金額と数量で25頁にわたり、こと細かに記載されています。具体的には、炊出しに提供した白米やそれを炊出し場所に運ぶ人夫代、塩、味噌代も入っています。蒟蒻を煮たのでしょうか、大量の蒟蒻や醤油や鰹節、また薪や蠟燭、油代などがあるほか草履代や縄代も含まれます。ほかにも、多くの項目に賃銭が出てきて、炊出しは今というボランティアではなく、ちゃんと賃金換算されていることが分かります。そして、この炊出しは戦闘当日のみならず、その後の残党取締の時までも続きます。

しめて10村(地区)で68項目、総額222円44銭。これは現代の感覚でいうとさしずめ数千万円になるでしょうか。

■整理担当者のつがやき

新旧が錯綜する明治という大きな時代のうねりの中に生き、戦という形に身を投じた人たち。彼らの胸には様々な思いが去来したことでしょう。そして死と隣あわせのそこに「食べる」ことを担う人たちが懸命に彼らを支えている現状。改めて、その現実を経費としてどのくらいかを計算してみると…いつの時代も戦いはとてつもなくお金がかかるものですね…。

注) 1. 本文の情報は令和8年3月現在のものです。その後の究明や新資料の発見により見解が改められることもありますので含みおき下さい。

2. 資料中に「秋賊」の表現がありますが、歴史的史料であることに鑑み、そのままとしています。ご了承ください。

3. 本書に掲載の写真や文章を無断で転載することは禁じられています。

編集・発行：みやこ町歴史民俗博物館/2026